

多摩市の未来洞察プロジェクト

PJメンバー

澤田 和樹, 高木 陽菜, 仲田圭佑, 長尾 真伸, 中森 諒,
藤田 倫太郎, 宮川 一花, ムンクトルナムーン, 横永 侑汰朗

発足の背景

近年全国の市町村が直面する少子高齢化問題は、例外なく多摩市にとっても喫緊の課題となっていた。

多摩市が将来描く像

都会の機能性と郊外の豊かな自然を調和させた、新時代の「ニュータウン」へ生まれ変わる。



②アニメアイデア

団地を活用したサテライトオフィス

コロナ禍により一般化してきたリモートワークに対応できる建物を住宅地の隅に設けることで、通勤時間を短縮するという構想を考えた。

地域コマースの導入

多摩市のシンボルである多摩中央公園を中心に、e-commerceプラットフォームやアプリの活用により、市民がより公園を活用するというアイデアを考えた。

TAMA FES

アメリカのSXSW（サウスバイサウスウエスト）を基に、音楽とビジネスの複合イベントを多摩市で実現することで、多摩市民に加え、市内外の関係企業、学校等多様な参画によってオープンイノベーションを促進しようと考えた。



⑥TAMA FES

私たちの提案である多摩万博とのかみ合いをきっかけに、多摩センターで『TAMATAMA FES』を開催することになった。コロナ禍で失われてしまった地域の催しや文化的コミュニティの再始動を応援するのが目的である。地元企業を中心となって多摩市の中で働くことの良さを伝え、新たな事業アイデアの提案を聴き、その体験をしてもらうことで多摩市の魅力を地元の人を中心に知ってもらう。

音楽を中心としたイベントと同時開催を計画していて、そこに集まった若者をいかに前述の企業ブースに促していくかがこれからの課題となる。

背景

未来洞察

アニメ作成

アニメ調査

愛宕団地活用

TAMAFES

振り返りと展望



①【未来洞察ワークショップ】

2021年10月、多摩市の職員10名/学生14名により、あらゆるニュース素材から、10年後の世界を考えた。AIの普段の生活への応用やそれに伴う規制、仮想空間のさらなる活用、転職・副業・リモートワークが当たり前になる新しい働き方など、自由な発想に基づきながらも、最終的に体系的なアイデアを生むことができた。

③【未来洞察アンケート調査】

市制施行50周年記念イベント「くらし・たのし・たまし」内で、未来洞察のアニメーションに関する受容性や、現状の生活との差を明らかにするため、多摩の方を対象にアンケート調査を実施した。総計100人ほどの人にご協力をいただき、団地・公園・万博の3つのテーマに関して忌憚らない意見をいただくことができた。同意見を分析した結果、未来洞察の内容にある程度共感してくれる人や前向きな印象をもっている人が多くいることが分かった。一方、具体的なイメージが持てないという意見も寄せられ、未来洞察に向けた課題も浮き彫りになった。



⑤【愛宕第二団地計画】

私たちは多摩市の地域活性化の一環として、愛宕第二団地の空きスペース活用方法を検討した。具体的には、1.老若男女、2.初期投資額、3.収益化もしやすさから、ボードゲームカフェを提案した。実際にJKK東京がオープンさせた「コミュニティプレイスあたご」には、カフェスペースにボードゲームを置くという形で一部実現した。



今後の展望

約2年の取り組みを経て、多摩市の将来像をある程度視覚化することができた。その一方、我々が描き出した未来の実現に向けた動きはまだ始まったばかりであり、今後乗り越えなくてはならない障壁は多く存在する。2030年に向けて多摩市を再び「ニュータウン」にするため、今後はより現実に即した課題に取り組みたい。